




收受年月日	議長	事務局長	書記
26・11・26			
第 130 号			



平成 26 年 11 月 26 日

埴町議会議長 鈴木道男 様

総務文教常任委員会委員長 小林達信



経済厚生常任委員会委員長 割貝寿一



## 委員派遣結果報告書

本委員会は下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

### 記

#### I 派遣目的

先進的健康政策及び議会活性化の調査研究

#### II 派遣の経過

1. 日 程 平成 26 年 11 月 19 日（水）～21 日（金）（3 日間）

2. 派遣先 長野県南箕輪村、松川村、松本市

3. 派遣委員

（総務文教常任委員）

鈴木 茂、大縄武夫、鈴木幸江、鈴木孝則、藤田高志、鈴木道男

（経済厚生常任委員）

割貝寿一、鈴木安次、藤田一男、小峰由久、吉田克則、藤田恵二

4. 職務として随行した者

議会事務局長 藤田衛昌、書記 下重敬子

5. 内容

#### 南箕輪村

（概要）

長野県のほぼ中央に位置し西に中央アルプス東に南アルプスを望む。面積は 40.9 km<sup>2</sup>（うち 20 km<sup>2</sup>は住民がいない飛地）である。稲作中心の農業が主産業であったが昭和 50 年代に中央自動車道路が開通し各種企業が進出するようになった。このため、現在も人口は増え続け 11 月現在で 15,070 人となっている。しかも高齢化率は 22.1%と低く、増え続ける児童生徒のための学校等の増改築が喫緊の課題である。

(視察内容)

ア 議会活性化

同村議会は平成 25 年度全国町村議会議長会特別表彰を受賞しており議会活動全般において全国的に高く評価されている。その内容について説明を受けた。

- ・住民の意見を聴くため村内各種団体との懇談会を年間通じて実施
- ・住民等から出された意見に迅速に対応する仕組みづくり
- ・地域活動への積極的参加

イ 子育て支援

同村は人口増加の一つの要因として子育て支援策の成果を上げている。(年間出生数は 160 人に上る。)

- ・子育て支援センター設置
- ・教育資金の利子補給
- ・子育て教育支援相談室設置
- ・保育料等の引き下げ

松川村

(概要)

長野県の北西部に位置し、北西部に北アルプスがそびえる。面積は 47.08 km<sup>2</sup>で、森林は約 56%である。平坦部は田園地域が広がり国道付近に住宅地が集積している。同村はいわゆる安曇野のエリアで、年間を通じ観光客でにぎわうほか、近年では学習旅行による農家民泊が増加している。安曇野市や松本市は通勤圏にあり村民の雇用の場となっている。人口は 10,121 人(平成 25 年 10 月)で減少傾向にあるがほぼ横ばいといってよい。

平成 25 年の男性平均寿命が 82.2 歳で男性長寿日本一になった。

(視察内容)

健康政策は以前から取り組んでいたところであるが、男性長寿日本一を契機に「健康長寿日本一」に向けて健康政策に取り組んでいるがその内容について担当職員から説明を受けた。

- ・保健補導員・食生活改善推進協議会員の活動
- ・健康運動指導士(職員)による健康教室の充実
- ・地道な活動による検診受診率の向上
- ・地域活動(健康教室、公民館活動)の自助意識の醸成
- ・長寿の要因(高い野菜摂取量、低い肥満者の割合、高い高齢者就業率、盛んな公民館活動)

## 松本市

### (概要)

長野県の中央部に位置し、東部には美ヶ原高原を望み、西部には北アルプスが広がる。平成の大合併において1市1町4村が合併して現在の松本市になった。面積は978.77 km<sup>2</sup>で、3,000m級の山岳地帯から梓川流域まで起伏に富んだ広大な面積を有している。江戸時代には松本藩の城下町として栄え、現在国宝に指定されている松本城がよく知られている。

### (視察内容)

同市は、平成23年度の策定した総合計画において「健康寿命延伸都市・松本」を将来像としてまちづくりに取り組んでいる。ここでの健康はあらゆる分野の健康を意味し、特に「人」「生活」「地域」「教育文化」「経済」「環境」の6つの分野を重点に「量」から「質」への転換を図り「次の世代に何を残していくか」という視点で物事を考えるという市長の考えが盛り込まれたものである。本視察ではこのうち「人の健康」「健康づくり」の取組について担当職員から説明を受けた。

- ・市民歩こう運動（地区ウォーキングマップの作成、エコ通勤運動等）
- ・栽培指導付き健康生きがい市民農園
- ・地域づくりセンター開設による地域コミュニティづくり支援
- ・子供の生活習慣改善事業（血液検査や親子運動遊び教室の開催）
- ・働き盛りの生活習慣病予防（職場単位で実施する健康講座の開催、体力健診事業の実施）
- ・身体活動維持向上事業（体力健診、運動教室）
- ・食育推進事業（小中学校への出前講座）
- ・企業との連携（健康施設等の利用者へのポイント制度、企業の社会貢献事業とのタイアップ、コンビニを利用した健康相談）

## Ⅲ 調査の結果

各委員報告書のとおり（別紙）

# 調査・研修等報告書

氏名	鈴木茂	提出年 月日	平成二十六年十一月 二十日
調査等 名称	常任委員会合同 行政視察 研修		
調査等 の日時	平成 26年11月19日	場所	長野県南箕輪村
調査等 の内容	議会改革、及び子育て支援策		
意見 感想	<p>                     昨年議会活動全国表彰を受けた南箕輪村は、研修にふさわしい町であった。村の運営は安定した財源もあり財政収支は良好であった。注目の議会改革については我が町より、1年ほど前に議会基本条例を制定し、10人という小人数の議員定数を感じることもなく活発に活動が行われていた。特記すべきは20以上に及ぶ各種団体、とくにPTAなどの若い人達とも意見交換会を実施し、その意見提言質問などを具体的に仕分けし、解決方法を見出し町側に提言などして、その成果を挙げていることである。新人議員が10人中1人も若い人達が議会改革を引張るところも注目である。                 </p>		

とこのも注目である。南箕輪町議会

調査・研修等報告書

氏名	鈴木 茂		提出年 月日	平成26年11月26日
調査等 名称	常任委員会合同行政視察研修			
調査等 の日時	平成26年11月20日	場所	長野県 松川村	
調査等 の内容	。健康長寿の村づくりについて			
意見 感想	昨年男性長寿日本一になった松川村は			
	その要因として			
	①高い野菜摂取量 ②低い肥満者の割合			
	③高い高齢者就業率 ④盛んな公民館活動			
	を挙げている。又、マルチゴルフ場があり、男			
	性は、趣味で、体を動かしているせいなど			
	いうことである。その他、保健指導員、食生			
	活改善推進員、健康運動指導士などを			
	配置し、より細かく健康の指導を行なっ			
	ている。特定検診や、健康相談会の受診者			
参加者も、はるかに増大を上げており、				
未受診者や介護予防事業対象者への				
金戸訪問など、その対応は、頭の下				
がるほどである。これらのことなど				

男性長寿日本一は、上記に挙げた要因の  
他、保健補導員を中心として地域に根ざした  
草の根的な保健指導が功を奏したものと  
思われる。我が町でも大いに学習する必要が  
ありと感いたします。

調査・研修等報告書

氏名	鈴木 茂		提出年 月日	平成26年11月26日
調査等 名称	常任委員会合同行政視察研修			
調査等 の日時	平成26年12月21日	場所	長野県松本市	
調査等 の内容	健康づくりの取り組みについて			
意見 感想	松本市は人の健康のみならず都市づくりを生活、地域、環境、経済、教育文化の六つの健康づくりと位置づけ、健康寿命延伸都市の創造を目指している。			
	特徴的でとくに目を引いたのは、こども			
	生活習慣改善事業で、小学生4年と中学生			
	2年の子ども全員に血液検査をしている			
	ことであり、1割ほどの子どもが血糖値			
	が高いとのことである。又地元の大学生			
	との連携で、親子運動会などを行い			
	こどもの運動不足の解消に努めている			
	ことである。その他にも、あまの年代を通じて			
	の生活習慣予防事業、体力維持・認知症予防事業など、あまらしい取り組みが			

目立つた。今後我が町での取組<sup>ま</sup>がなげ木がなごり  
と思ひました。



調査・研修等報告書

氏名	大縄武夫		提出年 月日	11月26日
調査等 名称	総務文教・経済厚生常任委員会合同視察研修			
調査等 の日時	11月19日(水) 21日(金)	場所	長野県方面	
調査等 の内容	南箕輪村 人口増加について。			
	松川村 男性長寿日本一の村			
	松本市 健康寿命延伸都市松本			
意見 感想	南箕輪村			
	昭和45年頃から人口が増加している現在15000人			
	と云っている合併するに併立村として今日に至る			
	子育て日本一と村長の公約など交通の便など			
	村全体が取りくんでいる。当所も日本2番目に			
	なるようにがんばりたい。			
	松川村			
	男性長寿日本一の村から健康長寿日本一の村へ			
村全体でめざしている。保健指導員、食生活改				
善推進協議会などの140名近い女性たちが				
活動している当所も市民一人一人が健康				
意識を持つべきである。				

# 調査・研修等報告書

氏名	大縄 式夫	提出年 月日	
調査等 名称			
調査等 の日時		場所	
調査等 の内容			
意見 感想	松本市の調査研修について。		
	市長が医者と言ふことにもあつて、美しく生きる。		
	健康寿命延伸都市松本、A創造をめぐり		
	6つの健康づくりプログラム健康づくり		
	危機管理、子育て支援など、又、まが歩くこと		
	ホームページ、運動など職員が率先して		
	行動していると言ふ。我々も自ら行動し		
	なければならぬ。		

調査・研修等報告書

氏名	鈴木 幸江	提出年月日	平成26年11月26日
視察等名称	総務文教、経済厚生常任委員会行政視察研修		
調査等日時	平成26年11月19日 14:00～16:00 長野県 南箕輪村 同 20日 13:30～15:30 同 松川村 同 21日 9:30～11:30 同 松本市		
調査等の内容	○ 長野県箕輪村 議会活性化    ○ 松川村 健康政策    ○ 松本市 健康政策		
意見感想	<p>○議会活性化（箕輪村） ～開かれた議会を目指して～</p> <p>議員歳費削減（定数・報酬）で定数減を選択し、住民との懇談会開催を充実させる議会活動とくに議会側から願う形を進めている。各種団体等の相手方を適宜選定する方式は我々も参考にしたい。意見集約にどの細かな配慮を感じる。さらに住民の声を議会活動・行政に反映さらには次回の意見交換会時に報告する等、議会としての姿勢（継続的・双方向）が明確である。積極的に住民と向き合っている。議会報告・意見交換会開催の参考に検討したい。</p> <p>全員協議会の定例化・委員長会議・情報委員会の設置等、種々の取り組みによる活動は先進的であるが繁雑化が懸念される。本議会の場合、情報化に対応した組織の検討・見直しも必要と考えるが繁雑化は慎重に考えたい。</p> <p>さらなる議会改革の推進にむけた活動・課題について、住民意見の集約・基本条例に沿った活動と検証・議員および議会全体のスキルアップ、本議会の課題でもある。議員および議会としてのスキルアップの一助として視察・研修報告書等による意見交換・課題の共有化も検討してはどうか。</p> <p>最後に、箕輪村議会として10名の議員が一体化して活動していると感じる。特別開かれた議会を目指し、地域活動に積極的に参加している。参考にしたい。</p> <p>○健康政策（松川村）</p> <p>松川村（平成25年度全国市区町村平均寿命・男性長寿日本一 82.2歳）</p> <p>出生前（妊娠中）出生時から生涯を通じた健康政策体系が一目瞭然と整備され、揺るぎない骨格となり、総合的な健康管理および支援体制が施策として企画され（住民ひとり一人の生涯に亘る健康生活、いいかえれば住民主役の健康福祉体系）自分の健康は自分で守るという自立して生きる住民の基本的姿勢が伺える。生涯における各ステージで、住民生活をバックアップした施策が進められている。</p> <p>長寿の要因分析として、村を支える潜在的ウーマンパワー（①保健補導員の食生活改善推進協議会員の長期間に亘る育成と継続活動）の育成活用と高齢者の社会参加と生きがいづくりと分析。1. 住民力 2. 地域力 3. 事業力いいかえれば行政の各担当部所が横断的に関わるメリットの結果が長寿につながっていると納得できる。結果として長寿日本一、幸福感アップ 医療費の軽減等々の実績を出している。</p> <p>住民の意識改革と定着・向上、地域力の育成、目標達成のための横断的施策と</p>		

関係のあり方等、今後議会としての関わり方、諸施策・事業検証の参考にしたい。

#### ○健康政策（松本市）

健康寿命の延伸を目標に「健康」を核にした都市づくり

「医」サイドから行政を見直す！！ 医師である市長のリーダーシップにより健康寿命延伸都市宣言・「健康寿命」延伸につながる人と社会の「健康づくり」を目指し地域が基盤という基本的な考えの基、6つの基本目標〔人・生活・地域・環境・経済・教育文化〕の健康を定め、目標達成に向け全庁横断的に連携し政策・諸事業が具体的計画的に推進し、実績が数値化され効果を確認できる先進地研修であった。

健康づくり計画のポイントを一次予防（発症予防）、世代に応じた健康づくり、健康を「核」にした自治体・大学・地域や企業・団体と連携、継続的な支援体制の整備・推進は目を見張る先進的な考え方であった。さらに今後健康産業関連の企業誘致を強化していくとのこと。

自然資源・歴史的文化的資源・経済的社会的資源等々の豊かさは単純に比較できないが、地域づくり人づくりは本町は勝るとも劣らない大きな可能性があるという自負。健康福祉政策提言につなげるヒントが見えてくる。

健康政策・健康福祉センター構想の参考になる研修でした。特に「健康づくりの拠点」としての視点からセンターの役割と充実すべき機能の参考にしたい。研修の成果・課題を議会として共有し、具体的に健康政策提言・センター建築提言および議会活動につなげたいと考えます。

#### 松川村・松本市の視察から

自立して生きる・自分たちの地域は自分たちが主役という姿が多々感じ取れる。地域の人材資源の育成・活用がより期待される。健康政策も含め少子高齢化・過疎化等々社会現象の変容に伴う諸課題に対し、住民主役の地域づくり・人材育成は必須。再認識した視察研修でした。

## 調査・研修等報告書

氏名	鈴木 孝則	提出年 月日	平成 26 年 11 月 22 日
調査等 名称	行政視察研修		
調査等 の日時	平成 26 年 11 月 19 日	場所	長野県南箕輪村
調査等 の内容	議会活性化について		
意見 感想	平成 25 年度全国町村議長会特別表彰を受賞している		
	伊那市との合併が住民投票で否決され早急に取り組める改革として議員		
	歳費削減に至り定数を 16 から 10 に削減し会議出席時の報酬支払廃止		
	を決定したとのことである。定数削減についていきさつを本音で話してく		
	れたが最低でも 12 は必要とのことであった。やけくそ削減や、住民受け		
	を狙った削減案には断固として反論し説得するくらいの気概が必要と感		
	じた。翻ってわが議会の報酬を 2 名分削減し 14 維持、実質 12 の選択は		
	評価してもいいと思う。議会基本条例を制定し住民と語る会や各種団体と		
	の懇談会を実施している。また YouTube を利用し本会議の動画配信を実施		
	し新聞、ケーブルテレビ局、地元有線放送等の報道機関に対し積極的に情		
	報発信をしている。埴町議会は今、先頭集団が見える位置にあると思うが		
	タブレット端末を導入し利便性の向上や機動性を追求し情報化を推進す		
るべきであり、現在までの軌跡からしても先頭集団の仲間入りも夢では			
ないと思う。			

# 調査・研修等報告書

氏名	鈴木 孝則	提出年 月日	平成26年11月23日
調査等 名称	行政視察研修		
調査等 の日時	平成26年11月20日	場所	長野県松川村
調査等 の内容	健康政策についての研修		
意見 感想	厚生労働省発表の昨年度全国市区町村平均寿命が82.2歳で男性長寿日		
	本一となった。		
	昭和37年に発足し52年目を迎えた保健指導員や昭和45年発足44		
	年目の食生活改善推進協議会員の長期にわたる活動の成果が具現された		
	のであろう。また人口動態、出生、死亡の状況、医療、医療費の状況、特		
	定検診実施状況、介護保険の状況等の各種データをもとに問題点や課題を		
	見出し今後の目標、方策や方針をたて事業の推進を図っている。特定健康		
	診査事業は受診の低迷を反省し特定健診とがん検診をセットにし結果説		
	明会は予約をし夜間でも行い夫婦そろっての結果説明を奨励し未受診者		
	には保健師、栄養士が全戸訪問を続け受診率の向上に結び付けている。		
松川村の豊かな自然、趣味を持つ、検診の受診奨励、食生活の改善、住民			
の意識改革、そして行政の努力等複合的な要因と長期の活動が結実した			
日本一であると思う。ローマは一日にして成らずです。			

## 調査・研修等報告書

氏名	鈴木 孝則	提出年 月日	平成26年11月25日
調査等 名称	行政視察研修		
調査等 の日時	平成26年11月21日	場所	長野県松本市
調査等 の内容	健康づくりの取り組みについての研修		
意見 感想	健康寿命延伸都市を宣言し、教育文化・地域・生活・経済・環境・人、それぞれの健康をめざしている。		
	信州大・松本大と連携、保育園・幼稚園・教育委員会・小中学校と連携した子どもの生活習慣改善事業を行っている。		
	健康講座を職域で展開し働き盛りの生活習慣病の予防に取り組み、メタボとロコモ予防に市民歩こう運動やウォーキング講座等を開催している。		
	食育推進事業では1日2食は3皿運動でバランスの取れる食事を推進している。		
	認知症予防では連携企業・団体は41を数え商品付ポイント制の脳活プログラムを実施している。		
	健康で長寿は誰もが望むものであるが、大きな市だからできる事業もあるが、松川村同様参考になった。医者 of 肩書を最大限生かし誰もが望む健康を前面に出すというなかなかの選挙上手の市長さんだと思いました。福島には余計な口出しをせず、地元だけのご活躍を祈念しております。		

## Title 議会改革と子育て支援研修

長野県南箕輪村

平成26年11月19日 14:00～

### 【1】子育て支援について

基本的な子育て支援の充実が第一印象であった。

人口動態予測でも、現在の2015年14800名が2040年には、16000名と増加する。

羨ましいことである。

南箕輪村には、幼稚園はないが保育園の保育料金の段階的な引き下げや福祉医療費の無償化の高校3年までの、段階的な拡充など、当町と比較しても大きな違いはない。

しかし、働く若い親にとって効果がある施策は、放課後子どもたちを預けられる

「学童クラブ」の無償化は、本当に効果があるのでは！と感じた、子育て世代が生活していく上で基本的施策が段階的に行われていることは、当町にも導入すべきである。

大きな違いは、やはり近隣50km圏内に精密機械メーカーをはじめとし企業がたくさんある、商業圏は、隣の伊那市がある、とにかく居住圏としての機能により安定した行政運営が行われていた。高速ICがあることも優位点である。

### 【2】議会活性化への取り組み

議員定数を16名から10名と大幅に削減を行った、しかし、本音の部分では削減し過ぎとのことであった。(12名が適当であるとのこと)

スピーディーな議会運営を行うため、住民懇談会での意見を処理するため、新たに



..... 2014年11月19日水曜日

「委員長会議」を設置、各委員会を横断的にすることにより、情報を行政に反映しやすくした。

「より開かれた会議」を目指して行っている、議会懇談会を村の将来を担う、PTA保護者などを行い、住民との距離感を縮めていることも参考とすべきであると感じた。

藤田高志

## Title 健康長寿の村づくり

場所:長野県松川村

・日時:平成26年11月20日 13:30～

「男性長寿 日本一」の村、ポイントは、行政と住民の距離が近いこと。

加えて、行政主導の自助型の村づくりにある、「住民との一体感、連帯感意識を持たせる」この考えと実行が村の力になっている。

住民同士が共に支え合う意識が根付いている、住民が「保健補導員」「食生活改善推進協議会会員」となり、行政サービスに頼るのではなく、住民参加型の村経営がおこなわれていた。

高齢者の趣味、幅広さについても、学ぶべき、高齢者の約90%が何らかの趣味をもっていた、特に印象に残ったのは、地域の自然を有効に活かした、マレットゴルフは当町でも、導入可能である、医療費の低減につながることであり、健康寿命延伸にもつながり当町でも導入すべきである。

「自分の始末、自分でする」なるべく人に頼らない、生活を推進していた。

自助の意識が高い村であった。

最後に担当職員のプロ意識の高さが村の健康事業推進の「カギ」となっていると感じた。

藤田高志

## Title 健康政策についての研修

場所:長野県松本市

日時:平成26年11月21日 9:30～

「健康寿命延伸都市・松本」実に興味深いタイトルである。

健康寿命を延ばすための事業が幅広い年代層で実施されていた、トップダウンによる20～30年先を見据えたことである。

こどもの生活習慣改善事業で、信州大学・松本大学との連携による、血液検査  
糖尿病予備軍の早期発見につながり、文字通り「早期からの生活習慣改善事業」である。同市に大学が出来る事業ではあるが。

取組の方向である、「市民と行政の協業」行政サービス依存型の経営を根底から改革している。

自ら健康を考えさせ、「PPK = ピンピンころり」健康寿命の延伸をできるところから実行していた。

松本市独自の「健康」をキーワードとした、行政運営もインパクトがあった。

市民・企業・大学・行政を協働と位置づけ、市民意識が健康へ行く、リードする行政の計画と実行性が松本市の成功のカギである。

市民の健康意識も高い、地域ぐるみの健康づくりに、上手に巻き込む行政の仕掛けがポイントではないか。

南箕輪村、松川村もそうであるが、健康事業に力強く推進している、長野県の姿勢が感じられた。

藤田高志

## 調査、研修等報告書

平成26年11月26日

鈴木道男

### 南箕輪村 議会活性化

昨年の全国町村議長会の講演でお会いし今回で2回目となります。議会活性化の進んだ村です。特に各種団体との懇談会を平成22年より年3回~9回も実施してきた。出された意見の対応のため新たな委員長会議を設置横のつながりを持ち素早い処理をしていた。また一般質問を半日とし誰がいつするのか分かる配慮をしたり、住民とともに活動することによって植花運動や青色回転灯を回し防犯パトロールをするなど住民の中に入り共に汗を流し行動していた。わが町も同じような活動や改革をしてきたが南箕輪議会さんはもっと深く追及し住民目線で行動する姿や、きめ細やかな、そしてスピードある対応が信頼を勝ち得たものと思います。今後も注視していきたいと思えます。

### 松本市 健康づくりの取り組み

美しく生きるをキャッチコピーとし健康寿命を伸都市宣言がなされていた①人の健康②生活の健康③地域の健康④環境の健康⑤経済健康⑥教育文化の健康と、6つの柱のもとそれぞれ 市民 行政 産、学 協働で進められていたその中の松本市健康づくりを見てきました。

子供の生活習慣改善事業では血液検査の結果1割の子供が生活習慣病予備軍との結果から食育に対する出前指導に力を入れたり信州大学と 連携し運動指導を実施していた。

働き盛りの生活習慣病予防事業では職場に出向いて健康講座を年55回も開いたり又企業との連携事業、ローソン駐車場での健康相談など市民の健康意識の向上に努めていた。

市は健康寿命を延ばすため生涯を通じた健康づくりや1次予防重視していたが自治体だけではできないと地域や企業、団体と連携することが運動の輪を広げる力となったと思う、また地域住民の身近なところで平成25年度は910名もの健康づくり推進委員を配置していることは素晴らしい。

幼稚園の砂場の砂を入れ替えてくださいとの要望に ではあなた方はその為に何をしましたか、行政に頼ることだけでなく自分たちでできることは自分たちでやらなければならないでしょう、医者が患者を診るように市民を患者に置き換え市政をする市長ですという職員の言葉が耳に残ります。

### 男性長寿日本一の松川村

長野県といえば長寿日本一の県ですがその中でも松川村は光っていました。人口10121人埴町と似ている村がなぜ日本一になれるのかはやる心を抑えて研修してきました。

なぜ長寿なのか①地域の伝統野菜が69種類もあることや果物の産地であり野菜の摂取量が長野県1位②肥満者が少ない長野県40位③農業が盛んなこともあり高齢者の就業率が長野県1位④公民館活動が盛ん

しかしそれらを支えるのは盛んな住民活動(女性)でした発足52年目の保健指導員が現在101名この数字は村民2~3人に1人が経験者とのことでも又発足44年目の食生活改善推進協議会員が40名

これらの方々が1軒1軒訪問したりそれぞれの地区で顔の見える細やかな活動の結果、長年の間に健康意識の醸成が進み地域力となったと思う。検診受診率、保健指導率の向上の秘訣も、来ない時はできるだけ会って話し合いができる様 とにかく訪問すること 足の働きなのかも。

## 南箕輪村

総面積 40.90 km<sup>2</sup> で人口 約 15,000人  
隣接する伊奈市より土地が安く、平坦地多く 災害が少ない  
暮らして安心という事で昭和50年以降働きざかりの子育て世代が  
1軒家を建て定住 今も新住人の方が多く住んでいる  
中央道 開通により 産都圏とつながり 企業参入増加  
松本市まで50kmと通勤圏内で 高専バス、高速道利用が幹事  
されている。

議会活性化の取り組みでは 議員定数 16名から10名に削減  
議会基本条例の制定において高野町より先行  
地域活動への積極的な参加 4項目ある中で 児童下校時  
月1回の防犯パトロールは驚いた。

村の財政状況は大変恵られていると感じた。

## 松川村

総面積 47.08 km<sup>2</sup> 人口 約 10,000人

地形の高低差がなく 水田向き

白馬村へのスキー客もあり 冬は観光客が多い。

人口減に危機感が強く 男性長寿日本一から  
健康長寿日本一を目指す。

昭和20年頃より主婦が自主的に保健師の身位を考えた  
保健指導員活動が大きく 各地区(17区)に

部長1名、部員2~4名選出、2年任期で現在101名  
年1回各領域単位ごとに補導員の講習会を開く

村の指導があると思えば 村民の自主的参加意識が高く感じた。

国道があり 2つの総合病院をかかえる恵られた環境にある。

## 2 松本市

総面積 978.77 km<sup>2</sup> と長野県で一番広く、人口 約 242,000 人  
市長が医者であった経歴から健康意識が高い  
「健康寿命延伸都市・松本」の創造を目指し  
大きく 6 つのまちづくりの基本目標を定め  
市民、産学、との協働により進めている

健康づくり計画のポイントとして メタボリックシンドロームと  
ロコモティブシンドロームの予防で 市職員自ら通勤等歩くようにしている

松本市の特徴的な事業、5 つの中で注目は  
こどもの生活習慣改善事業である。

今年度より 小学 4 年生 2000 人と 中学 2 年生 2400 人を  
市独自で血液検査を実施。将来の健康づくりの基礎となっている

健康とは、寿命の長さではなく 質の問題として  
健康寿命を重要としている

今回、3 自治体 いずれも 地元大学との  
連携が特徴である。

## 調査・研修等報告書

氏名	鈴木安次	提出年 月日	
調査等 名称			
調査等 の日時	平成26年11月19日	場所	長野県南箕輪村
調査等 の内容	議会活性化について		
意見 感想	平成16年の9月議会において定数16名から10名に		
	削減したが一人のリードによって思わぬ方向になってしま		
	ったようだ。我が埴町にも定数削減を望んでいる声がある		
	のは承知しているが、議会として、議員として定数削減の		
	声の意味するところをよく考えて行動しなければならない		
	と思う。		
	議会活性化に向けた懇談会も実施されているが、村民から		
	の申込みは少ないので、議会から申し込んで実施している。		
	埴町議会も町民からの申し込みを待っているのではなく、		
	各種団体に申し入れをして積極的に行動する必要がある		
のではないか。			

## 調査・研修等報告書

氏名	鈴木安次	提出年 月日	
調査等 名称			
調査等 の日時	平成26年11月20日	場所	長野県松川村
調査等 の内容	健康政策について		
意見 感想	昭和20年頃、地域の主婦たちが保健師達のお手伝いをしよう		
	と自主的に呼びかけて保健補導員活動が始まり、昭和37年に		
	発足以来52年各地区より部長1名部員1～14名で現在は		
	101名で活動し、任期は2年で2～3人に1人は経験していて		
	2度目の人もいるというのは地域性や、昭和20年頃よりの伝統		
	のたまものなのであろうか。		
	又、県の研修、ブロック研修、地方事務所管轄での研修等々		
	きめ細やかな研修が組まれていて保健補導員さんのレベルアップ		
	に努めているのは素晴らしいことである。埴町だけでできる事では		
	ないが見習うべき点は多々あると思う。		
例えば、ふれあいサロン等は地元の公民館を利用して保健指導員			
さんや赤十字奉仕団員さん、ボランティアグループも募って活動			
していくのも方法ではないか。			
多彩な趣味のグループやマレットゴルフ等で声を出したり、体を			



動かす機会が多いのは特によいと思う。

松川村の中に内科医4件、歯科5件、外科1件、眼科1件、整形外科1件あるのは驚きであるが、村とは言っても周りの市町村との垣根が無いので経営が成り立っているのだと思う。又、隣町には総合病院も二つあり、直ぐに紹介状を書いて診ていただけるので村民は安心して生活できているのは心の健康にも非常に良いことである。

## 調査・研修等報告書

氏名	鈴木安次	提出年 月日	
調査等 名称	健康政策について		
調査等 の日時	平成26年11月21日	場所	長野県松本市
調査等 の内容	松本市の健康づくりの取り組みについて		
意見 感想	松本市の健康政策が市民、産、学、行政一体となっていて行われている点は羨ましい限りである。		
	健康寿命を延ばす運動の初歩である、ウォーキングについても		
	全庁で取り組み、各部署から色々なイベントや講座等が上がってくるのは松本市ばかりでなく、長野県全体の伝統文化としてあるのではないか。		
	健康づくりの基盤となる地域づくりにおいても既存の施設を利用して支援を行っているのは見習うべきではないか。		
	又、多くの町民が参加している産業祭には献血バスが来町しているこの場所を利用して健康相談会をすることは出来ないだろうか。		
	まず今回の研修ですぐに取り組めるのは3010運動ではないか。		
	飲食の機会が多い議員自らが実践していくべきと思う。		

## 南箕輪村の議会活性化について

10人の議員でもやる気になれば出来る  
場所でも見習う点が多々ある  
やっている事は大差ないと思うが議員の心構えがちがう  
その点はおおりに見習わなければならぬ  
人口増は地域性があり我が町では別の対策を立ててやらなければ  
ならぬ

## 松川村、松本市の健康政策について

すぐに出来るものではない  
長い目で見て我が町で出来る事から始めていかなければならぬ  
どの何から始めるかが大事である  
このような研修は議会ばかりではなく職員も研修するべきであると考えられる

藤田一男

1.  
埴町議会委員会合同研修

11.19 ~ 11.21

小峰由久

出席 12名 欠席 2名

11.19 南箕輪村

1. 議会活性化（南かした議会への取組）

○ 地域活動への参加

単に顔を出すのではなく積極的、能動的  
に行動（お客さんではない）

○ 住民懇談会の実施

町内各団体への声かけ積極的に実施

議員全員参加による話し合い

御意見に対し委員会の対応、回答

議員10人中6人が新人、3期遠が3人と  
若い議会であるがそれだけに積極的な活動  
が印象に残った。平成の大合併時に意見の相違  
から16名から10名に削減したが及有すべき点が多い  
と言う事であった。

2. 子育て支援

○ 人口（子供）が増えて居るぐ施設の  
増築を進めているといううらやましい村

○ 支援策には特に~~異~~異なるものはなかつた

11.20 松川村

男性長寿日本一の村

健康長寿への取り組みは多種多様である

- ・専門職員を育成して居る
- ・互助事業 (60代~65代が70代以上を応援する)
- ・祭教会が多い (芸能大会、スポーツ大会)
- ・生きがい作り (農家民泊、修学旅行の誘致  
140名が利用、対応が手に合わない)
- ・保健指導員 (各区分に部長以下2~14名、2年任期  
地区の女性ほとんどが経験者)  
役場担当者への自信に圧倒された。

11.21 松本市

健康寿命延伸都市

命の量より質を求めてに共感しました  
印象に残った事業は

- 1. 小学生、中学生の血液検査 (小4、中2対象)  
(大人と同じ内容)
- 1. 生活習慣改善運動  
子供からの健康作りに力を注いでいる

めざそう PPK

# 調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則	提出年 月日	平成 26 年 11 月 26 日
調査等 名称	総務文教・経済厚生常任委員会合同視察研修		
調査等 の日時	平成 26 年 11 月 19～21 日	場所	長野県
調査等 の内容	視察先視察内容		
	南箕輪村 議会改革活性化		
	松川村 男性長寿日本一の村		
	松本市 健康長寿延伸		
意見 感想	<p>南箕輪村</p> <p>平成の大合併と村として住民投票で自立を選択した。議員歳費削減へ議員が会議に出席した際の報酬支払廃止、議員定数を 16 名から 10 名へ削減。議会活性化の取り組みについては平成 22 年に議会活性化研究会を発足する。まず、住民の意見を聞くことから始める。翌年 23 年に議会活性化検討特別委員会を設置した。議会基本条例平成 25 年制定、議会の動きが遅い、議会や議員の活動がよくわからない等村民との懇談会での指摘を受けとめ新たに委員長会議を設置し住民から出された様々な意見・質問事項を委員長会議で整理、担当委員会にて審議。議会として対応をしている。</p> <p>村の人口が増加している中で、議員 10 人で多くの住民の声が聞けるのか。村として新たな転入者へのコミュニケーション対応を求められている。</p>		

松川村 男性長寿日本一の村

松川村は、明治 22 年の町村制施行以来合併等もなく 125 年を迎える。人口動態は大正 9 年に実施された第 1 回国勢調査以降、順調に増加。村の総合計画の目標定住人口を 10,700 人と設定、主要交通が整備され隣接市町村の通勤圏内にありベッドタウンとしての転入者も多い。住みよい村、住んでみたい村づくりを進めている。

男性長寿日本一の要因は、住民力（女性・健康補導員、食生活改善活動 男性・高齢者就業、公民館活動、趣味等）地域力（住みやすい風土、子供等の転入者増加等）事業力（保健師等による結果説明会、健康相談、未受検者訪問、介護予防事業対象者への全戸訪問等）と 3 世帯での世帯割合が高い。趣味を楽しんでいる。農作業・家庭菜園の行動者率が高い。日常生活に不安を感じる人が少ない。地域食材の利用率が高い。等があげられた。

松本市 健康寿命延伸都市

健やかでいきいきと暮らすことは、私たちの共通の願いです。そのためには、自らの心と体、そして、私たちが暮らす松本のまちが健康であることが大切です。私たち松本市民は、一人ひとりの「いのち」と「暮らし」を尊重し、「健康寿命」の延伸につながる人と社会の「健康づくり」をめざし、ここに松本市を「健康寿命延伸都市」とすることを宣言します。と平成 25 年に議決した。松本市長は、医師出身であることから健康への思いは強い。特徴的な事業は 1. こどもの生活習慣改善事業 2. 働き盛りの生活習慣病予防事業 3. 身体活動維持向上事業 4. 食育推進事業 5. 企業との連携をあげた。健康寿命とは健康で、明るく、元気に生活し実り豊かで、満足できる生涯の期間と健康寿命延伸都市松本を学んだ。

11月19日

◎南箕輪村

- ・議会活性化への取り組み

平成16年に議員定数を16名～10名に削減

議会基本条例は5章—10条で行われ全協を毎月1回行い委員長会議でチェックを行っていた。

中央自動車道があり産業が延びて人口も増えている。

- ・農業は当町と同じである。

11月20日

◎松川村

男性長寿日本一（生活感、健康感、幸福感）

1、生活感

3世代での割合が高く、家族以外との交流があり地域の行事参加（マレットゴルフ、カラオケ）特にカラオケは60団体あるとの事。

2、健康

地域食材の利用も高く嫌いな物は少なく農作業、家庭菜園の行動者率が高い。

3、幸福

3世代の同居が多く農作業を運動と考え趣味、娯楽を楽しむ行動者率が高く地域への愛着度も高いので不安ある人が少ない。

11月21日

◎松本市

健康寿命延伸都市を目指して

- ・3Kプラン（健康づくり、危機管理、子育て支援）

充実した日常を送り最適な状態又暮らしの質、人生の質、の向上を目指し人間同士の絆を原点として、命と暮らしを大切に考える。

- ・子供、大人的生活習慣改善事業を大学と連携して行っている。企業団体41社又フィットネスクラブや新聞社（6万5千戸）信用金庫、コンビニなどが協力しあって、健康意識の向上に努めていた。あくまでも市民が主役である。